

第12回「資産運用の基礎（その5）～「金融商品を選ぶポイント！」～」

三菱UFJ信託銀行 菅谷 和宏

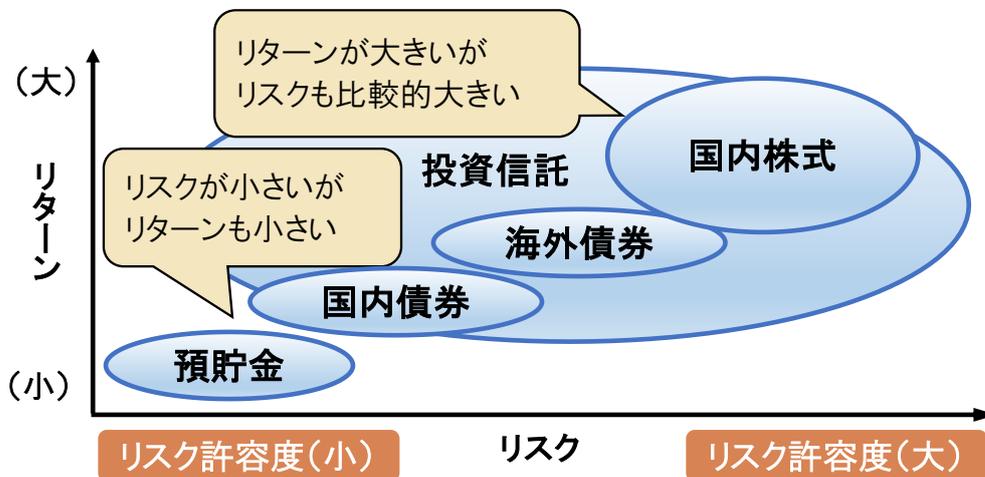
前回は金融商品の「リスクとリターンの関係」を解説しました。今回は金融商品を選ぶ2つのポイントについてご説明します。

【資産運用の基礎-⑩】 ◆「自分のリスク許容度」を考えてみよう

金融商品を選ぶポイントの1つ目は、「自分がどれくらいのリスクを取れるのか？」を考えることです。「リスク」とは第9回でご説明したように「収益率のブレ幅」ですので、このブレ幅をどのくらい許容できるのか？を考えます。少し難しい言葉ですが、これを「リスク許容度」と言います。このリスク許容度によって、選べる金融商品が異なります。

一般的に年齢が若く給与収入等が長期にわたって見込まれる方や、ある程度の金融資産を保有している方や、生活費以外の余裕資金で運用できる方は、「リスク許容度」は大きくなり、ある程度のリスクを取った資産運用も可能です。この場合は、前回ご説明したように、少しリスクは高くても、リターンが見込まれる「国内株式」「外国株式」を中心とした商品選択が可能となります。一方、リスク許容度は小さくしたい方は「国内債券」等での運用が考えられます。

(図表1) 金融商品を選ぶポイント（その1）～リスク許容度～



【資産運用の基礎-⑪】 ◆「投資信託」とは？

でも、どのような株式を選択したらよいのか？また、第10回では「分散投資」の大切さをお伝えしましたが、「国内株式」「国内債券」「外国株式」「外国債券」をどのように組み合わせたらよいのか分からない場合は、「投資信託」を選択することが考えられます。

投資信託とは、複数の金融商品を組み合わせて作られたもので様々な種類があります。リスク許容度が高く、ある程度のリターンを追求したいのであれば「国内株式型投資信託」「外国株式型投資信託」、リスクを抑えたいのであれば「国内債券型投資信託」が考えられます

が、自分がどの程度のリスクがとれるか分からない、どの投資信託にしたらよいか分からない場合には「バランス型投資信託」を選択することも考えられます（図表 2）。

「バランス型投資信託」とは、国内株式・国内債券・外国株式・外国債券等の複数の金融資産で運用する金融商品のことです。バランス型投資信託の中にもリターンを積極的に目指す「アクティブ型」と、金融市場の動きと同じ程度のリターンを目指す「パッシブ型」があります。また、同じ「バランス型投資信託」でも株式割合を 30%、50%、70%などとした複数の商品が用意されている投資信託もあります。

（図表 2）投資信託の種類



【資産運用の基礎-⑫】 ◆金融商品の手数料を考えよう！

2つ目のポイントは、金融商品の手数料を考えることです。預貯金であれば手数料はかかりませんが、株式や投資信託を購入・売却した場合には手数料がかかります。この売買手数料は金融機関により異なり、また金融商品ごとに異なりますのでよく確認することが大事です。投資信託では、保有期間中にも「信託報酬」という手数料がかかります。手数料が高いと、せっかく高い利回りが得られても手数料分が差し引かれますので、運用収益が減少してしまいます。一般的には、パッシブ型投資信託の方が、アクティブ型投資信託よりも信託報酬は低く設定されています。手数料は金融商品の「交付目論見書」に記載されていますので必ず確認してみてください。

（図表 3）金融商品を選ぶポイント（その 2）～金融商品の手数料～

購入時	購入時手数料	・投資信託の購入時に販売会社に支払う手数料 ・なお、手数料が無料(これをノーロードと言う)の商品もあります
保有時	信託報酬	・販売会社、運用会社、資産管理会社の運用・資産管理等の費用 ・運用資産の一定割合(0.1～2.0%程度)が運用資産から差し引かれる
売却時	信託財産留保金	・売却した際に係る手数料で、株式や債券を換金するための費用 ・なお、手数料が無料の商品もあります

金融商品を選ぶポイントは、自分が取れるリスク許容度から金融商品の種類を選択し、さらにその中から、手数料を比較して金融商品を選んでみてください。

なお、金融商品の選定は投資者ご自身の判断と責任でお願いします。